

2018年度 湘南藤沢学会研究助成「研究発表」成果報告書

慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科

博士課程3年 野沢絵梨

第 45 回日本スポーツ心理学会

「全国トップクラスのテニス選手が獲得するライフスキルの検討 一対人スキルに着目して」

■1. 日程・会場

日程:2018年10月12日~10月14日

会場:名古屋国際会議場

■2. 活動目的

本研究を日本スポーツ心理学会にて発表を行い、スポーツ心理学を専門とした全国の研究者とディスカッションすることで、研究の視野を広げ、今後の研究を発展させる方向性の検討に役立てることを目的とした。

また本学会では競技スポーツ現場での、選手・チーム指導経験が豊富な研究者が集まることから、実際の競技指導現場で必要とされる知見や、選手・指導者に有益となりうる知見を提示する研究の進め方について助言を受けることが可能である。それによって、本研究の論文を投稿するにあたり、考察に必要な視点を広げることが期待される。

■3. 発表内容

本研究は、テニス競技において全国トップレベルの成績を残した元大学体育会選手を対象に、半構造化インタビューを実施し、チームでのスポーツ活動を通して獲得したライフスキルのうち、特に対人関係に関わるライフスキルを明らかにすることを目的とし、検討してきた。対象者9名に半構造化面接によるインタビュー調査を実施し、インタビュー内容をテキスト化した上で、テキストデータを質的データ分析(佐藤、2007)にて分析を行った。

その結果、他者との関りによって得られた成長過程に関わる意味単位は20のサブカテゴリーに分類され、最終的に「意思表示」「他者感情の思慮」「ミーティング」「役割遂行」「組織貢献」の5つのカテゴリーにまとめることができた。考察では、各ライフスキルの獲得プロセスとその構成要素から、ライフスキルの獲得が対象者らの競技パフォーマンスの向上に寄与する要因を検討した。

■4. 活動の成果

本学会では、テニス以外の競技専門分野とした研究者が多く、本研究について集団競技や他の個人競技との類似点と相違点など、さまざまな視点から質問を受けディスカッションすることができた。また、少数ながらテニスをはじめとしたラケットスポーツの研究者や指導者から、競技現場での本研究の知見の活かし方に関わる貴重な意見と指摘を受け、本研究で示す指導者への提言における新たな視点を獲得することができた。

■5. 今後の展望

本研究の論文化に向け、学会発表を通して得られた知見をふまえた考察を再考する。そして、より質の高い投稿論文と博士論文にすべく総括し、準備を進める。また、本研究を基にした指導プログラムの開発を新たに検討していく。

■6. 謝辞

本学会参加にあたり、資金援助をしてくださった湘南藤沢学会に厚く御礼を申し上げます。



写真：発表ポスター